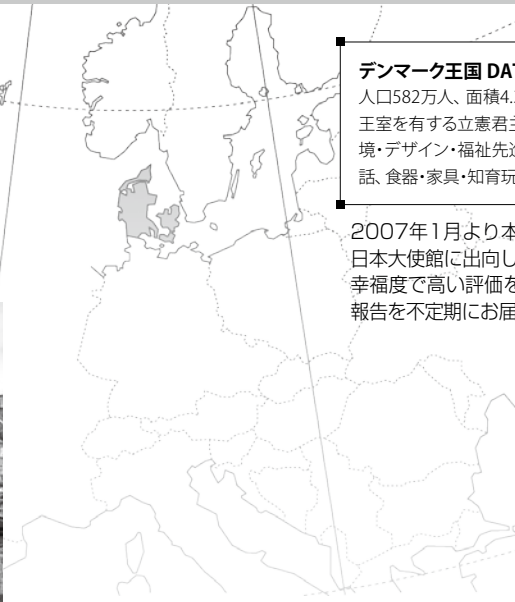


LETTER FROM COPENHAGEN
コペンハーゲン通信 PART VII
8



美しいコペンハーゲンの街並み



デンマーク王国 DATA

人口582万人、面積4.3万平方キロ(九州)、欧州最古の王室を有する立憲君主国。「世界一幸福度の高い国」「環境・デザイン・福祉先進国」として知られ、アンデルセン童話、食器・家具・知育玩具などのブランドは日本でも有名。

2007年1月より本会事務局職員が在デンマーク日本大使館に出向しています。国際競争力や人々の幸福度が高い評価を受けるデンマークからの現地報告を不定期にお届けします。



小林 功人

在デンマーク日本大使館二等書記官
(経済同友会事務局より出向中)

100%の確信はないけれど

コペンハーゲン空港に降り立つとふと目を引くのが、デンマークのビール会社 Carlsberg (カールスバーグ) の「Probably the best beer in the world」というキャッチコピー広告です。「100%の確信はないけれど」というニュアンスを表現する「Probably」という謙虚な姿勢に個人的に好感を持っています。

本稿のタイトルは、デンマーク資本の銀行の中で国内2番目の規模を誇る Jyske (ユスケ) 銀行で聞いたブリーフィングで印象に残ったことから引用しました。では、ここ数年、にわかに日本の投資家から注目を集めているデンマークのカバードボンド(住宅ローン債権)市場の特徴について、簡単にご紹介します。

デンマークの住宅ローンは歴史が古く、起源は1797年にさかのぼります。その2年前の1795年、大火に見舞われたコペンハーゲンでは多くの家が焼失しました。そのために住宅の建設需要が急激に高まったことに伴い、安定したファイナンスの仕組みの必要性を認識した富裕層によって、1797年に最初の住宅ローン組織が設立されました。それ以来、金融危機や二度のオイルショックなど数多くの不況期を経たにもかかわらず、一度もデフォルトが発生していないという世界でもまれな安定性を持つ債権市場にまで成長を遂げました。

当地での住宅ローンは、市中銀行ではなく専門金融機関であるモーゲージバンクが取り扱うものの、彼らは「あくまでもローンの借主と投資家をつなぐ仲介役に過ぎず、貸主ではない」という点において日本の住宅ローン市場とは異なる特徴を持ちます。リスクはモーゲージバンクではなく投資家が負うものの、そのリスクは過去の歴史から極めて低いといえます。

また、貸主(投資家)が住宅ローン債権を共通のプラットフォームに登録すれば、利害関係者は、貸主、借主、ローン種別を確認でき、一部のオペレーションもシステム上で簡単に処理できるため、借主に合った手頃なローンを提供することが可能なのです。こうした仕組みの下、小国デンマークの住宅ローン市場は、隣国の大国ドイツよりも大きな市場規模を誇るまでに至っています。

Jyske 銀行は現在、デンマークの住宅ローン債権事業で培ったノウハウを活用できる日本のパートナーを探しているとのことでした。ご関心のある読者の方がいらっしゃいましたら、在デンマーク日本大使館日本企業支援窓口 (Email: business-support@ch.mofa.go.jp) までお気軽にお問い合わせください。



Jyske銀行住宅ローン部門マネジメントチーム



JYSKE BANK